3 薬剤師確保のための取組

(1) 薬剤師確保のための取組

ア 実施有無

a 病院

病院が薬剤師確保のために平成30年度から令和4年度の間に行った取組は、「業務の効率化」が51.7%と最も高く、次いで「薬剤師の待遇改善」が46.0%、「就労環境・制度の改善」が41.4%であった。

全国では、病院が薬剤師確保のために平成 29 年度から令和 3 年度までの間に行った取組については、二次医療圏人口 20 万人以上 50 万人未満では「業務の効率化」が 48.4%最も高く、次いで「スキルアップ、キャリア形成」が 42.9%、「薬学生に病院に 就職してもらうための取組」が 37.4%であった。栃木県は全国と比較して「薬剤師の待 遇改善や就労環境・制度の改善」の割合が高かった。

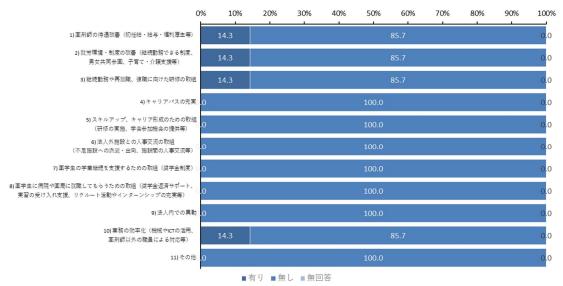
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% 1) 薬剤師の待遇改善(初任給・給与・福利厚生等) 2) 就労環境・制度の改善(維続勤務できる制度、 男女共同参画、子育て・介護支援等) 3) 継続勤務や再就職、復職に向けた研修の取組 4) キャリアパスの充実 5) スキルアップ、キャリア形成のための取組 (研修の実施、学会参加機会の提供等) 6)法人外施設との人事交流の取組 (不足施設への派遣・出向、施設間の人事交流等) 7) 薬学生の学業継続を支援するための取組(奨学金制度) 8) 薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組(奨学金返済サポート、 実習の受け入れ支援、リクルート活動やインターンシップの充実等) 10) 業務の効率化 (機械やICTの活用。 薬剤師以外の職員による対応等) 11)その他 ■有り ■無し ■無回答

図表 132 薬剤師確保のための取組の実施有無 (病院)

b 有床診療所(常勤医3名以上)

有床診療所(常勤医3名以上)が薬剤師確保のために平成30年度から令和4年度の間に行った取組は、「薬剤師の待遇改善」「就労環境・制度の改善」「継続勤務や再就職、復職に向けた研修」「業務の効率化」がそれぞれ14.3%と最も高かった。

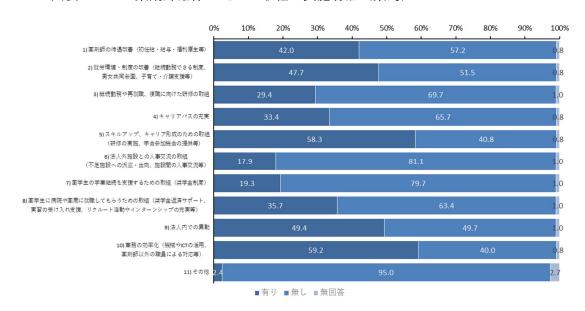
図表 133 薬剤師確保のための取組の実施有無(有床診療所(常勤医3名以上))



薬局が薬剤師確保のために平成30年度から令和4年度の間に行った取組は、「業務の効率化」が59.2%と最も高く、次いで「スキルアップ、キャリア形成」が58.3%、「法人内での異動」が49.4%であった。

全国では、薬局が薬剤師確保のために平成 29 年度から令和 3 年度までの間に行った取組については、二次医療圏人口 20 万人以上 50 万人未満では「業務の効率化」が 62.6%最も高く、次いで「薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組」が 56.7%、「薬学生の学業継続支援」が 55.6%であった。栃木県は全国と比較して「薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組」や「薬学生の学業継続支援」の割合が低かった。

図表 134 薬剤師確保のための取組の実施有無(薬局)

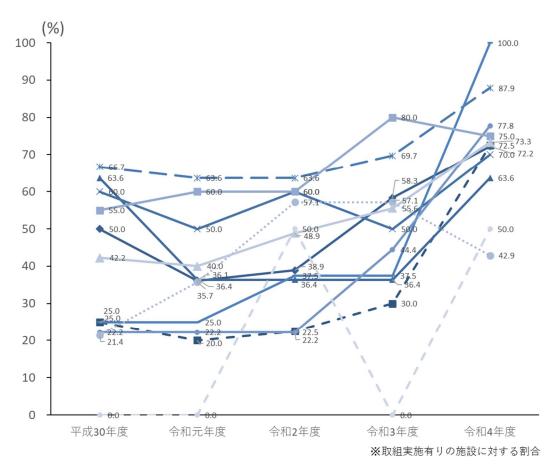


イ 実施年度(複数回答)

a 病院

病院が薬剤師確保のために平成30年度から令和4年度の間に行った取組について、 実施有り回答した施設に対する実施年度の割合は、「その他」及び「法人内での異動」 「キャリアパスの充実」以外の多くの取組で令和2年度以降に増加傾向が見られた。

図表 135 薬剤師確保のための取組の実施年度(病院)

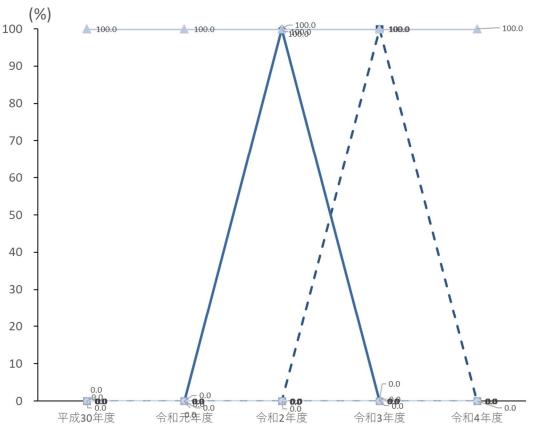


- **━■●** 1)薬剤師の待遇改善(初任給・給与・福利厚生等)
- ━━ 2) 就労環境・制度の改善(継続勤務できる制度、男女共同参画、子育て・介護支援等)
- → 3) 継続勤務や再就職、復職に向けた研修の取組
- → 4) キャリアパスの充実
- ── 5)スキルアップ、キャリア形成のための取組(研修の実施、学会参加機会の提供等)
- ━━ 7)薬学生の学業継続を支援するための取組(奨学金制度)
- ■■ 8)薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組(奨学金返済サポート、実習の受け入れ支援、リクルート活動やインターンシップの充実等)
- •••••9)法人内での異動
- <u>→</u> 10) 業務の効率化(機械やICTの活用、薬剤師以外の職員による対応等)
- ---11) その他

b 有床診療所(常勤医3名以上)

有床診療所(常勤医3名以上)が薬剤師確保のために平成30年度から令和4年度の間に行った取組について、実施有り回答した施設に対する実施年度の割合は、以下に示すとおりであり、明確が傾向は認められなかった。

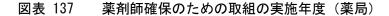


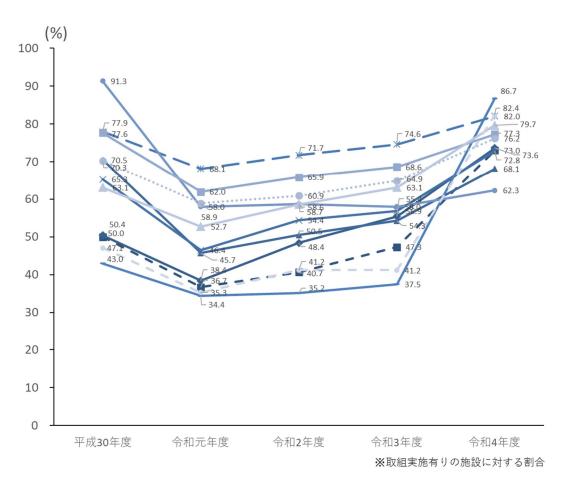


※取組実施有りの施設に対する割合

- ━■━ 1)薬剤師の待遇改善(初任給・給与・福利厚生等)
- → 2) 就労環境・制度の改善 (継続勤務できる制度、男女共同参画、子育て・介護支援等)
- → 3) 継続勤務や再就職、復職に向けた研修の取組
- ── 4) キャリアパスの充実
- **──★** 5)スキルアップ、キャリア形成のための取組(研修の実施、学会参加機会の提供等)
- ━━ 7)薬学生の学業継続を支援するための取組(奨学金制度)
- ━━━ 8)薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組(奨学金返済サポート、実習の受け入れ支援、リクルート活動やインターンシップの充実等)
- •••••9)法人内での異動
- ─── 10)業務の効率化(機械やICTの活用、薬剤師以外の職員による対応等)
- ---11) その他

薬局が薬剤師確保のために平成30年度から令和4年度の間に行った取組について、 実施有り回答した施設に対する実施年度の割合は、いずれの取組も令和元年度に減少 したものの令和2年度以降に増加傾向が見られた。特に「法人外施設との人事交流」は 令和4年度に大幅に増加した。





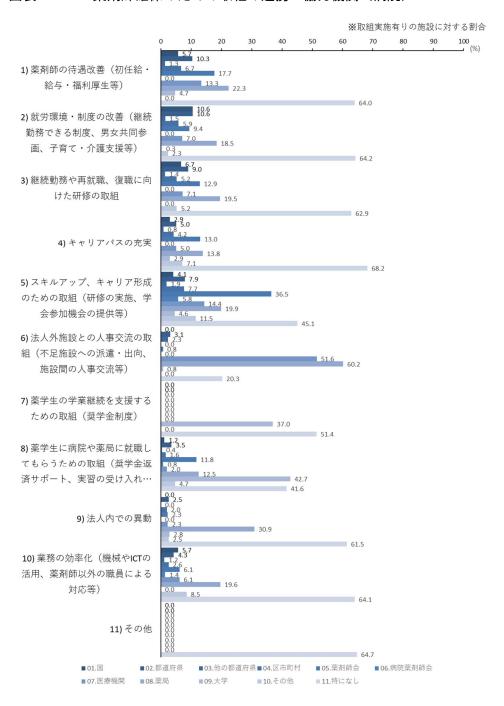
- ━■━ 1) 薬剤師の待遇改善(初任給・給与・福利厚生等)
- → 2) 就労環境・制度の改善(継続勤務できる制度、男女共同参画、子育て・介護支援等)
- → 3) 継続勤務や再就職、復職に向けた研修の取組
- ──4) キャリアパスの充実
- ➡ 5)スキルアップ、キャリア形成のための取組(研修の実施、学会参加機会の提供等)
- 6) 法人外施設との人事交流の取組(不足施設への派遣・出向、施設間の人事交流等)
- ━━7)薬学生の学業継続を支援するための取組(奨学金制度)
- ■■ 8] 薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組(奨学金返済サポート、実習の受け入れ支援、リクルート活動やインターンシップの充実等)
- ••●••9)法人内での異動
- ─── 10) 業務の効率化(機械やICTの活用、薬剤師以外の職員による対応等)
- ---11) その他

ウ 連携・協力機関(複数回答)

a 病院

病院が薬剤師確保のために平成30年度から令和4年度の間に行った取組について、 実施有り回答した施設に対する連携・協力機関の割合は、「キャリアパスの充実」、「法 人内での異動」、「法人外施設との人事交流の取組」は3割以上が医療機関と連携・協力 していた。また、「キャリアパスの充実」、「薬学生の学業継続を支援するための取組」 「薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組」は3割以上が大学と連携・協力し ていた。その他の多くの取組は連携・協力機関が特になしの割合が高かった。

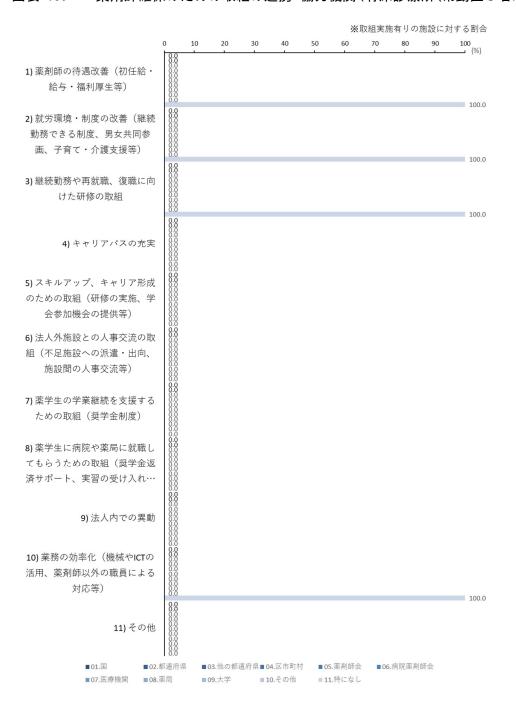
図表 138 薬剤師確保のための取組の連携・協力機関 (病院)



b 有床診療所(常勤医3名以上)

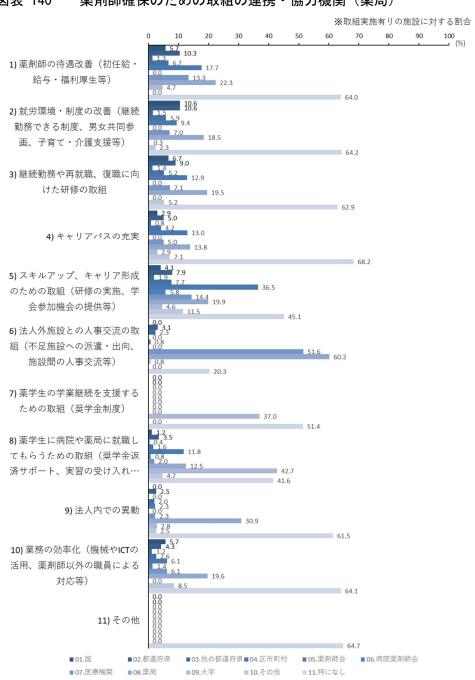
有床診療所(常勤医3名以上)が薬剤師確保のために平成30年度から令和4年度の間に行った取組について、実施有り回答した施設に対する連携・協力機関の割合は、いずれも特になしであり、それぞれの機関で実施していた。

図表 139 薬剤師確保のための取組の連携・協力機関(有床診療所(常勤医3名以上))



薬局が薬剤師確保のために平成30年度から令和4年度の間に行った取組について、 実施有り回答した施設に対する連携・協力機関の割合は、「スキルアップ、キャリア形成」は3割以上が薬剤師会と連携・協力していた。また、「法人外施設との人事交流の取組」は5割以上が医療機関と連携・協力していた。また、「法人外施設との人事交流の取組」、「法人内での異動」は3割以上が薬局と、「薬学生の学業継続支援」、「薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組」は3割以上が大学と連携・協力していた。その他の多くの取組は連携・協力機関が特になしの割合が高かった。

図表 140 薬剤師確保のための取組の連携・協力機関(薬局)

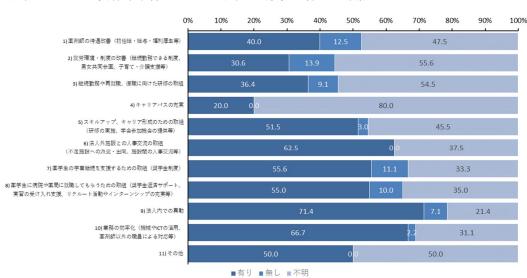


エ 効果の有無

a 病院

病院が薬剤師確保のために平成30年度から令和4年度の間に行った取組について、それぞれ実施有り回答した施設に対する効果有りの割合は、「法人内での異動」が71.4%と最も割合が高く、次いで「業務の効率化」が66.7%、「法人外施設との人事交流」が62.5%であり、速やかに人員の増員を図ることが可能である取組や業務量を減らすことが可能な取組など直接的に人員数や業務量の改善を行う取組の割合が高かった。

また、「薬学生の学業継続の支援」や「薬学生に病院や薬局に就職してもらうための 取組」「スキルアップ、キャリア形成」も5割以上が効果有りと回答しており、薬学生 への働きかけやスキルアップ等による業務へのやりがいの向上の取組が薬剤師確保に 対する効果が高いと考えられた。

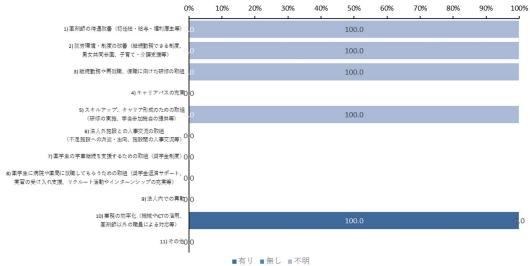


図表 141 薬剤師確保のための取組の効果の有無 (病院)

b 有床診療所(常勤医3名以上)

薬局が薬剤師確保のために平成30年度から令和4年度の間に行った取組について、それぞれ実施有り回答した施設に対する効果有りの割合は、「薬剤師の待遇改善」「就労環境・制度の改善」「継続勤務や再就職、復職に向けた研修」「スキルアップ、キャリア形成」で効果有りとの回答であった。

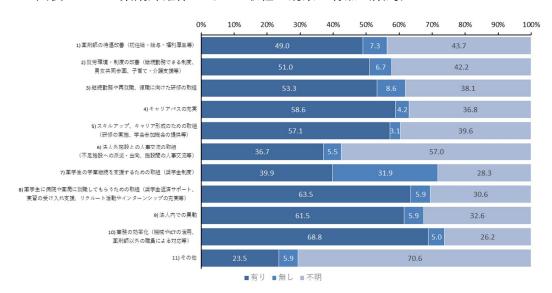
図表 142 薬剤師確保のための取組の効果の有無(有床診療所(常勤医3名以上))



薬局が薬剤師確保のために平成30年度から令和4年度の間に行った取組について、それぞれ実施有り回答した施設に対する効果有りの割合は、「業務の効率化」が68.8%と最も割合が高く、次いで「薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組」が63.5%、「法人内での異動」が61.5%であり、速やかに人員の増員を図ることが可能である取組に加え薬学生への働きかけも効果が高いと回答する割合が高かった。

また、「就労環境・制度の改善」や「継続勤務や再就職、復職に向けた研修」、「キャリアパスの充実」、「スキルアップ、キャリア形成」も5割以上が効果有りと回答しており、業務へのやりがいの向上の取組が薬剤師確保に対する効果が高いと考えられた。

図表 143 薬剤師確保のための取組の効果の有無(薬局)



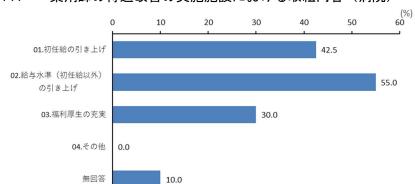
(2) 「薬剤師の待遇改善」の内容(複数回答)

3(1)ア a の「薬剤師の待遇改善」を実施有りと回答した施設における取組内容は、病院では給与水準(初任給以外)の引き上げが55.0%と最も多く、次いで初任給の引き上げが42.5%、福利厚生の充実が30.0%であった。

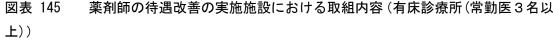
有床診療所(常勤医3名以上)では、初任給の引き上げを実施していた。

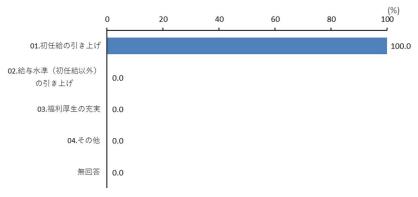
薬局では給与水準(初任給以外)の引き上げが 64.3%と最も多く、次いで福利厚生の充実が 59.0%、初任給の引き上げが 27.3%であった。

病院では薬局に比べて初任給の引き上げの割合が高いが、2(6)オの採用した薬剤師の年代で病院の方が20代の割合が高いためと考えられた。

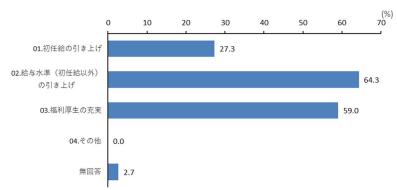


図表 144 薬剤師の待遇改善の実施施設における取組内容 (病院)





図表 146 薬剤師の待遇改善の実施施設における取組内容(薬局)



(3) 「就労環境・制度の改善」の内容(複数回答)

99.無回答

0.0

3(1)ア a の「就労環境・制度の改善」を実施有りと回答した施設における取組内容は、病院では休暇の取得がしやすい環境整備が80.6%と最も多く、次いで子育て・介護支援の充実が61.1%、勤務時間の調整がしやすい環境整備が50.0%であった。

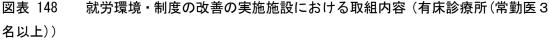
有床診療所(常勤医3名以上)では、子育て・介護支援の充実を実施していた。

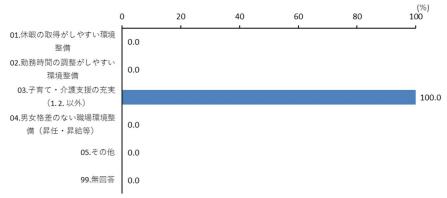
薬局では、休暇の取得がしやすい環境整備が79.5%と最も多く、次いで勤務時間の調整がしやすい環境整備が73.9%子育で・介護支援の充実が71.6%であった。

薬局では病院に比べて、非常勤の割合が高く、勤務時間の調製のしやすさの割合が高いと考えられた。

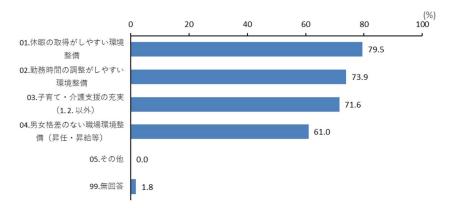
(%) 100 60 80 01.休暇の取得がしやすい環境 80.6 整備 02.勤務時間の調整がしやすい 環境整備 03.子育て・介護支援の充実 61.1 (1.2.以外) 04.男女格差のない職場環境整 41.7 備(昇任・昇給等) 05.その他 0.0

図表 147 就労環境・制度の改善の実施施設における取組内容(病院)





図表 149 就労環境・制度の改善の実施施設における取組内容(薬局)



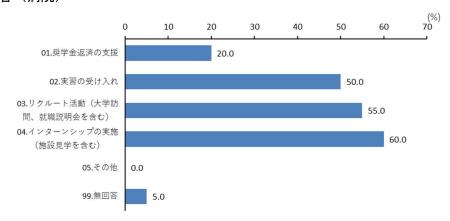
(4) 「薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組」の内容(複数回答)

3(1)ア a の「薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組」を実施有りと回答した施設における取組内容は、病院ではインターンシップの実施が60.0%と最も高く、次いでリクルート活動が55.0%、実習の受け入れが50.0%であった。

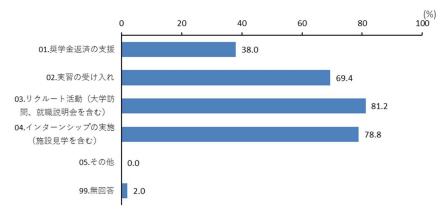
薬局ではリクルート活動が 81.2%と最も高く、次いでインターンシップの実施が 78.8%、 実習の受け入れが 69.4%であった。

いずれも病院に比べて薬局のほうが割合が高かった。

図表 150 薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組の実施施設における取組 内容(病院)



図表 151 薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組の実施施設における取組 内容(薬局)



(5) 「業務の効率化」の内容(複数回答)

3(1)ア a の「業務の効率化」を実施有りと回答した施設における取組内容は、病院では機械の活用及び薬剤師以外の職員による対応がそれぞれ77.8%で最も高く、次いで ICT の活用が40.0%であった。

機械の活用及びICT の活用、薬剤師以外の職員による対応のいずれも業務削減につながったが8割以上であった。特に、薬剤師以外の職員による対応は薬剤師定員の削減につながったが28.6%で最も高かった。

有床診療所(常勤医3名以上)では、ICTの活用及び薬剤師以外の職員による対応を実施し

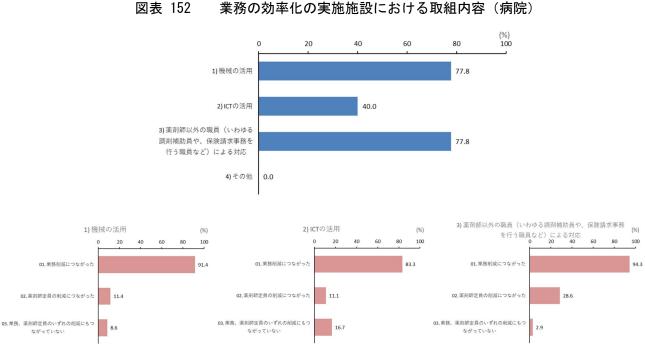
ており、いずれも業務削減につながったとの回答であった。

薬局では機械の活用が91.7%と最も高く、次いで薬剤師以外の職員による対応が90.3%、 次いで ICT の活用が 74.7%であった。

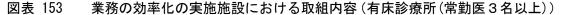
機械の活用及びICTの活用、薬剤師以外の職員による対応のいずれも業務削減につながっ たが8割以上であった。特に、薬剤師以外の職員による対応は薬剤師定員の削減につながっ たが 45.3%で高かった。

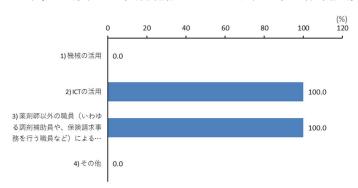
薬局は、その他としてシステム構築やマニュアル見直しなどが挙げられており業務削減や 薬剤師定員の削減につながったとの回答の割合が高かった。

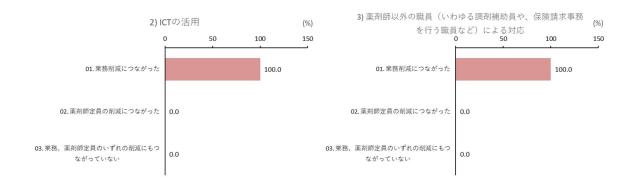
いずれも病院に比べて薬局のほうが割合が高かった。



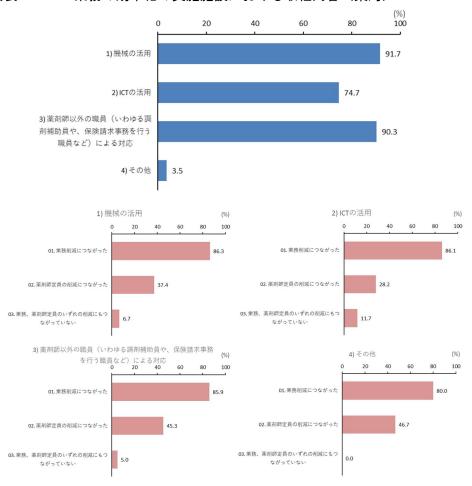
図表 152







図表 154 業務の効率化の実施施設における取組内容(薬局)



(6) 特に工夫した取組(複数回答)

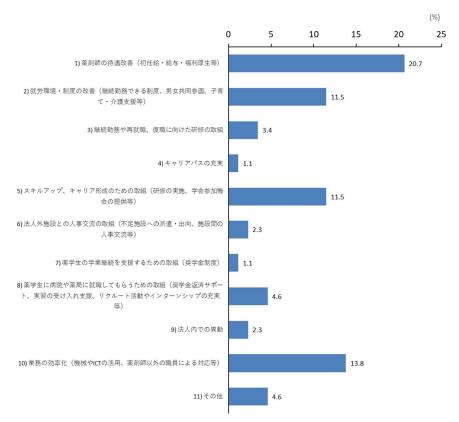
薬剤師確保のために平成 30 年度から令和 4 年度の間に行った取組について、特に工夫した取組は、病院では「薬剤師の待遇改善」が 20.7%と最も高く、次いで「業務の効率化」が 13.8%、「就労環境・制度の改善」及び「スキルアップ、キャリア形成」がそれぞれ 11.5%であった。

有床診療所(常勤医3名以上)では、「薬剤師の待遇改善」及び「スキルアップ、キャリア 形成」がそれぞれ14.3%であった。

薬局では「薬学生に病院や薬局に就職してもらうための取組」が 10.2%と最も高く、次い

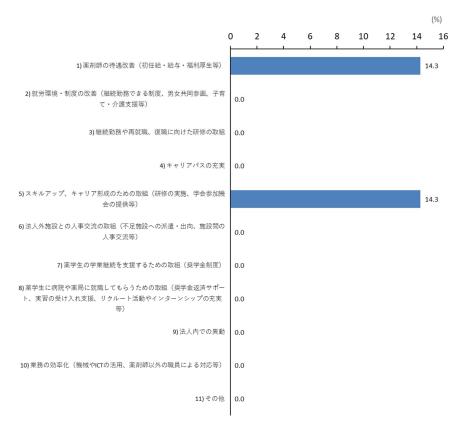
で「業務の効率化」が 7.6%、「スキルアップ、キャリア形成」が 7.4%であった。

図表 155 特に工夫した取組 (病院)



取組	特に工夫した内容
D VIAM	基本給の引き上げ
1) 薬剤師の待遇改善(初任給・給与・福利厚 生等)	各種手当の見直し
	休暇を取りやすくした
	個別の給与額相談
	資格手当を支給
	時給、昇給率を上げた
	初任給の引き上げ、初任給調整手当の新設
	責任を考慮した対応
	前職給料に近づける
	福利厚生の充実
	薬剤師手当の支給を開始した。
2) 就労環境・制度の改善(継続勤務できる制度、男女共同参画、子育で・介護支援等)	動務時間に柔軟性を持たせている
	勤務時間や休暇が取りやすいように、薬剤師不在時の処方方法や、や、院外処方について気を付けている。
	継続勤務の実施
	子育て、介護支援制度の充実
	子供の急な発熱で早退しなければならないとき、他部署から業務をカバーして育児しやすい環境づくりをした。
	持病がある場合、3歳以下の子供を養育する場合などは当直を免除する
A) (A) (A+1176) T-1171 (FTH) (FTH)	就業規則の整備
3) 継続勤務や再就職、復職に向けた研修の取	
組	復職受入
4) キャリアパスの充実	キャリアパスの構築
	学会参加
	学会等への参加への案内
	研修参加提供
	研修を実施
5) スキルアップ、キャリア形成のための取組	
(研修の実施、学会参加機会の提供等)	新人を年長者と組ませる事で学会参加、学会発表につなげている。
	認定取得を希望した薬剤師には、関連学会の参加を出張として認める。また、関連業務やチーム医療への参加などを通じて認定要
	件が満たせるようサポートを行っている。
	都内の訪問調剤薬局との交換研修会
	部門や前門側が未向この大阪町形立
6) 法人外施設との人事交流の取組(不足施設	奨学金制度を確立した
への派遣・出向、施設間の人事交流等)	X Subject of the subj
7) 薬学生の学業継続を支援するための取組	
(奨学金制度)	パンフレットを作成しリクルート活動を強化した
8) 薬学生に病院や薬局に就職してもらうため の取組(奨学金返済サポート、実習の受け入	
	実習対策として、実習プログラムに薬剤業務以外の栄養管理(病院食の試食あり)、心力テ見学、透析室見学なども組みいれてい
	る。また、見学を随時受け入れているが、人材育成ラダーの紹介と、病棟業務においては見学したい病棟(ICU、循環器病棟、緩
	和ケア病棟など)での薬剤師の活動を紹介、同年代の1~2年目薬剤師との懇談をなどを取り入れている。
	薬局見学の随時実施。大学での就職説明会への参加。
	適正な職場環境の検討
9) 法人内での異動	認定取得に向けた臨床数の確保や、家庭の事情などを理由に異動できるような環境を整えている
	PCの活用により、データの集計の手間を省いた
10) 業務の効率化 (機械やICTの活用、薬剤師 以外の職員による対応等)	看護師による対応を増やした
	書類の電子化、院内の共有の電子化、電力ル連動の調剤機器導入
	調剤、一包化等新機械導入の効果がみられた
	調剤補助者を採用、薬局助手の採用、薬剤師以外の職員のサポート
	電カル上でのテンプレート作成等での指導入力の省略可
	電子カルテ、オーダリングシステム導入、電子カルテ及びカルテに連携した薬剤システムの導入
	一か月の勤務時間(140時間)のなかでの調整が可能
	業務の分担
	専門資格へのインセンティブを検討。但し実施までは至っていない。
	他部門からの業務サポート
	DOMESTIC STANDARY OF T

図表 156 特に工夫した取組(有床診療所(常勤医3名以上))



取組	特に工夫した内容
1) 薬剤師の待遇改善(初任給・給与・福利厚 生等)	給与
5) スキルアップ、キャリア形成のための取組 (研修の実施、学会参加機会の提供等)	院内勉強会による発表や他職種との意見交換